

平成28年度第2回融資運営委員会 議事録

■日時：平成29年1月18日（水）10時30分から11時45分

■場所：庁議室

■出席委員：流山商工会議所専務理事 上坂 操  
（敬称略） 千葉銀行流山支店長 豊田 浩司  
流山商工会議所常議員 小山 忠士  
澤田税務会計事務所 澤田 敬  
市民代表 青木 俊雄  
市民代表 中 政行

■事務局：流山市役所 経済振興部 次長兼商工振興課長 金子 孝行  
流山市役所 経済振興部 商工振興課 課長補佐兼商工活性係長 柳 浩樹  
流山市役所 経済振興部 商工振興課 商工活性係 主任主事 稲村 陽

■傍聴人：なし

■議題：

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 平成28年度融資状況について
  - (2) 平成29年度の貸付利率等について
  - (3) その他
    - ア 利子補給事務の手続きについて
    - イ 融資取扱金融機関の変更について
    - ウ 最新の金融情勢等について豊田委員（千葉銀行流山支店長）からの説明
- 4 閉会

■議事録：

- 1 開会  
（金子課長よりあいさつ。資料の確認）
- 2 委員長あいさつ  
（上坂委員長よりあいさつ。開会宣言）
- 3 報告事項
  - (1) 平成28年度融資実績について  
（事務局より説明）

委員：融資、セーフティの申請・認定ともに土木・建築業の割合が高いようだが、どのような事情か。

事務局：市内における活発な開発により、資金需要が高まっているのは間違いないと思います。

なお補足になりますが、市内で開発行為・建築行為を行う際には、一定規模を超えるものについて、事前協議を行うこととされていますが、設計事務所等の事業者と協議する段階で許可を頂き、事前協議書の写し等の資料を流山商工会議所に共有しています。

これにより、市内事業者が仕事を獲得するきっかけを作っています。

委員：自分の住まいの近隣は、おおたかの森から一駅離れているが、やや大規模な開発が進んでいる。土木事業者が先に着工し、その後一定期間の後、建築事業者が入ることになるので、資金需要もそのような流れになるのではないかと思う。

委員：自分は税理士として建設業のお客様も対応している。戸建ての場合は、代金は前払いになるが、それでも一回目の支払いは前払いのカタチになることも多く、運転資金が必要となることが多い。

委員：融資を実行した「サービス業」の具体的な事業内容は？

事務局：飲食、自動車関連、美容室等です。美容室については金額も大きく、出店に伴う運転資金、設備資金の利用でした。

## （２）平成２９年度の貸付利率等について

（事務局より説明）

委員：一般論になるが、マイナス金利を導入したにも関わらず、中小企業まではどの程度好影響があったのか疑わしい。個人の住宅ローンはこれだけ下がっているのに、事業性の融資の利率は高いままである。

思い切った金利でないと、中小企業はなかなか借り入れがしにくく、チャンスを逃しているのではないかと見ている。

長期金利は市場に任せるものだが、それまでコントロールしようとしていることに疑問を感じる。地域金融機関に期待したい。

委員：住宅ローンについては、ネットバンクが低コストで提供しているため、地域金融機関が追随し、利率を下げざるを得ない状況である。住宅ローンは信用コストが低いのは実情だが、それでも現状の金利は低すぎるのではないかと見ている。

事業性融資については、業況や取引ぶり等で個別に設定しているが総じて金利は決して高いとは考えていない。

委員：孫請けの中小企業などは、適正な利益が得られないと厳しいが、現状の金利でも、借りられるだけ有難い、という見方もある。金融機関もリスクをしっかりと見つつ、個別

対応で適正な金利を設定しているものと見ている。

委員：金融庁が地銀に対して、地元の企業を育てるよう指令が出ている。低利率では金融機関にとっても厳しいので、貸出しにもシビアにならざるを得ない。そういった場面で、この市の制度融資の出番があるのではないかと。

委員：利率はお客様それぞれである。創業間もないお客様については、保証料はかかるものの、この制度融資を使うメリットがあると思う。

### 3 その他 ア 利子補給事務の手続きについて

(事務局から説明)

委員：申請者がそれぞれ金融機関に来店等し、手続きをするフローになっているが、申請者及び金融機関にとって、ともに負担となっている。金融機関側で、返済が予定通り行われているか、いくら利息が払われているかというのは把握できているので、計算書を作成して市に報告するなど対応できている市もあり、利子補給の手続きについては簡素化が可能ではないかと思う。

事務局：過去にも、市で簡素化を模索しましたが、法規の面での課題をクリアすることができなかったという経緯がありました。とはいえ、事業者にも、金融機関様にも、行政としても簡素化が図られるのは望ましいことですので、研究を進めたいと考えます。

### イ 取り扱い金融機関の追加

(事務局から説明)

事務局：京葉銀行豊四季支店については、営業エリアの見直しにより、事業性融資を取りやめるとのことで、これまでのお取引先は流山おおたかの森支店に移管されました。また、2月1日からの予定で、千葉銀行流山おおたかの森支店が、取扱金融機関に追加されます。

### ウ 最新の金融情勢等について

委員：この数か月の金融情勢について、私を感じたことを話させて頂きたい。

#### ・国内景気

7～9月の実質GDP二次速報値で+0.3%、一次速報からは下方改定されたものの、4～6月に比べやや改善。11月11日発表の大企業製造業DIでは+10。9月調査に比べ4ポイント改善で、改善は1年半ぶり。大企業製造業の想定為替レートは104円90銭と円高に修正されたが、足元では112円80銭と大幅な円安で推移しており、不安定。非製造業DIは18%で横ばい。

総じて、「景気は悪くない」と見られるが、ご存知の通り、トランプ大統領就任による先行き不透明感は否めず、当面は一喜一憂せず見ていくべき。

## ・家計部門

有効求人倍率は1.43まで上昇。人手不足感から非正規労働者の賃金が引上げられ、改善している。ただし依然として消費者の節約志向、先行き不透明感は払しょくされていない。

## ・長期金利

前回この場では、マイナス0.3%とお話したが、現在は0~0.1%に誘導する方針のもと0.05%という状況。

## ・物価

日銀は目標2%の物価上昇率達成時期を先送り。実態とかけ離れている状況。円安、原油高が重なると、物価上昇傾向の可能性があるとされている。もう少し時間が必要という見方が強い。

## ・マーケット

複合的な動きになるので、全く予測がつかない。イギリスのEU離脱問題の際には、1ドル100円を切っていた。直近ではトランプ氏が就任し、法人税の引き下げ、インフラ整備を政策とするなど、内需拡大への期待でドルが買われている。

ピーク時は118円までドル安となったが現在は112円台。日経平均については、円安やアメリカ景気への期待が好感され株価は2万円近く行ったが、現在は乱高下している状況。

1年前は中国リスクの話をしていたと思うが、年中にイギリスの問題が起こり、本当に先が読めない。日々の動向を見張りたい。

## ・地元企業

主観だが、輸出関連企業は好調。特殊技術を持つ企業は強い。いっぽう小売、外食は消費伸びず苦戦。

個人的には、高齢化と事業承継が課題だと感じている。高齢者が代表を務める零細企業では、後継者がおらず廃業になるケースも見られる。一定規模の企業になれば、M&Aや事業売却をするケースもある。

事業承継への対応を先延ばしにせず、代表者に考えてもらうのも金融機関の役割だと考えており、単にビジネスの見地からだけではなく、地域金融機関として真のニーズを捉え、一緒に考えていきたい。

委員：自分も事業承継の対応に当たることもあるが、融資が残っている場合、営業権を従業員に譲渡するケースもあり、金融機関との連携により柔軟な対応が求められる。

委員：確かに流山商工会議所でも、廃業による脱会のケースが目立ってきた。

※最後に事務局から事務連絡があり、閉会となった。

以上